



スポーツ科学の視点で捉えた
「遊びを通じた運動発達支援」

Be-Wellプログラム発表会

10月26日（木）14時・19時 各90分

「発達障がい児童は、姿勢の調整や全身を協調した動きに関する課題を抱えていることがあります。これは、神経系や感覚処理に関連する問題が影響するものと考えられています。“Be-Wellプログラム”はこの課題に対してスポーツ科学の視点で対応し、遊びを通じて子ども達の協調運動の改善に貢献することを目標にしています。さらには生活の質向上にも貢献したいと考えています。」

Be-WELLプログラムのコンセプト

1. 「基礎動作」と「コーディネーション」
2. 「遊び」を通じた段階的プログラム
3. スポーツ科学の知見に基づく「ボディワーク」体験

移動動作、姿勢制御動作、操作動作を合わせて、運動能力を構成する7つの能力（バランス能力、変換能力、連結能力、リズム能力、定位能力、識別能力、反応能力）を育てます。

遊びの中に、成長がある。
その仕組みこそ、
私たちが考える運動
発達支援です。

なぜすべての子ども?

10歳頃に統合失調症 (Schizophrenia) の発症リスクが倍増する

発達障害 → 生活困難 → 各種障がい → 自己肯定感

早稲田大学スポーツ科学学術院
教授 広瀬統一
元なでしこジャパンフィジカルコーチ

